

## 会 議 概 要

|       |  |
|-------|--|
| 会議の名称 | 第1回 第3期湧別町総合計画審議会<br>教育文化専門部会  |
| 開催日時  | 令和3年4月13日（火） 13時30分 開会<br>15時30分 閉会  |
| 開催場所  | 役場湧別第2庁舎 中会議室  |
| 出席者名  | 委員：工藤専門部会長、岩佐・黒田・黒川・澁谷各委員<br>策定委員：尾山課長、坂本課長、佐藤室長<br>事務局：因課長、西海谷主幹、高尾主査   |
| 欠席者名  | 深谷・古川各委員   |
| 傍聴人の数 | 無し   |
| 会議の内容 | 1. 開会<br>2. 会議成立報告<br>3. 委嘱状交付<br>4. 部会長あいさつ<br>5. 基本計画の審議について<br>（1）学校教育<br>（2）社会教育<br>6. 次回会議日程について<br>7. 閉会                                 |
| 会議資料  | 第1回 第3期湧別町総合計画審議会 教育文化専門部会議案<br>資料1 第3期 湧別町総合計画（諮問案）<br>第3期 湧別町総合計画審議会追加資料<br>第1回第3期 湧別町総合計画審議会会議録   |
| 会議録   | <input checked="" type="checkbox"/> 有 （ <input type="checkbox"/> 全文筆記 <input checked="" type="checkbox"/> 要点筆記 ）<br><input type="checkbox"/> 無 |
| 備考    |  |

1 (てん末書用紙)

## てん末書

### 1 日 時

令和3年4月13日(火) 午後1時30分から午後3時30分

### 2 会 場

役場湧別第2庁舎 中会議室

### 3 会議及び用務

第1回 第3期湧別町総合計画審議会 教育文化専門部会

### 4 出席者

#### 委 員

工藤専門部会長、岩佐・黒田・黒川・澁谷各委員

※欠席：深谷・古川各委員

#### 策定委員

尾山課長、坂本課長、佐藤室長

#### 事 務 局

因課長、西海谷主幹、高尾主査

### 5 結果要旨

第3期湧別町総合計画審議会における第1回目の教育文化専門部会を開催しましたので、報告いたします。

1. 開会
2. 会議成立報告
3. 委嘱状交付
4. 部会長挨拶
5. 基本計画の審議について

工藤部会長から、会議時間(概ね2時間)及び議事進行方法(項目ごとの説明と審議)について提案し、委員からの異議なく審議に移る。

以降、諮問案の分野(学校教育、社会教育)ごとに事務局説明の後、項目(「現状と課題」、「10年後のめざす姿」、「主要施策」、「施策の評価指標」)ごとに質疑を受け、内容について審議を行った。

#### (1) 学校教育

##### 【質疑(現状と課題)】

黒川委員) 小学校第5・第6学年において英語が始まりで「英語」という表記と、小学校第3・第4学年でも外国語活動が必修化されましたで「外国語」と表記が異なっている、英語以外の外国語を教えているのか。

⇒ 佐藤室長) 3・4年生は主に外国語活動としていて、英語の主に話すこと・聞くことの活動を通して学び、5・6年生はこれまで中学校で学んでいた英語の読むこと・書くこと・話すことが、小学校に移行して、学ぶということです。

## 2 (てん末書用紙)

⇒ 黒川委員) 要は英語ですよ。他の国の言葉は無いですよ。

⇒ 尾山課長) 教えているのは英語のみでして、わかりにくいので、表記を変更します。

工藤部会長) プログラミング教育が必修化されたので、表記した方がいいのでは。

⇒ 澁谷委員) プログラミング教育は、パソコンを使ってプログラミングを教えるのではなく、論理的思考を教えるもので、プログラミング教育という教科があるわけではなく、算数や総合的な学習の中で教えますので、教科としては入れられないかと思います。

工藤部会長) SDG s について、これから子どもたちが社会に出ていく時にとても重要になってくるので、将来を見通した上で、文言なり施策を追加して示さなくてはならないかと思うのですが。

⇒ 尾山課長) 文部科学省から SDG s について具体的な指導は示されていないが、その時々におきた事象、例えば災害や再生可能エネルギー、北方領土、アイヌなどの通知等があれば対応している。ただ、SDG s の考え方を教えることはできると思っています。

⇒ 工藤部会長) 保護者目線でいくと実施してもらいたいと思っている。授業の中に入れ込むのは現状として難しいかもしれないが、例えば夏休みの課題とか作文にすることで効果はあると思うんですよ。方向性として施策に追加してもいいけど、現状と課題で将来に向けて書くのもいいと思う。掲載して周知することで、町民の理解へとつながると思う。

⇒ 佐藤室長) SDG s の学習については、総合的な学習の時間の中で子どもたちが主体的に自然や環境やエネルギーなど色んなことを学ぶ機会があるので、どこの学校でもそれに関わる教育活動をやっていますので、学校活動の中に位置づけることは可能かと思います。

⇒ 尾山課長) その部分の記述について、主要施策への記載を検討します。

【審議 (現状と課題)】 意見なし

【質疑 (10年後のめざす姿)】

⇒工藤部会長) 10年後ではなく5年後を目標にした記載があってもいいのではないか。

⇒因課長) ほかの部会でも質疑がありましたが、10年後の目標ではなく、来年度でも、明日にでもいいという意識の元で実施していったらいいという設定でして、10年後を待って達成する設定ではないです。

【審議 (10年後のめざす姿)】 意見なし

【質疑 (主要施策)】

### 3 (てん末書用紙)

黒田委員)「適正配置と小中一貫教育の推進」で、義務教育学校について、進み具合の違いから湧別地区と上湧別地区を分けて書いていると思いますが、湧別町全体を考えた時に地区分けしなくてもいいのではと考えました。

⇒ 尾山課長) 現状と課題の中で小中一貫教育の理想形は義務教育学校と書かせていただきまして、令和3年度の町長の執行方針で明確に湧別地区の義務教育学校を今年度から建設開始すると明記された一方、上湧別地区については時期が決まっていなく、これから相談を始めるといふことで、このように書かせていただきました。

⇒ 黒田委員) わかりました。

工藤部局長)「確かな学力を育む教育の推進」の中で北大の協力について記載されているが、他大学とは連携しないのか。

⇒ 尾山課長) 北海道大学と令和2年に連携協定を結んだことからその連携を育てていきたく、他大学との濃いつながりは今のところスタートラインに立っていないことからこのように記載しました。

⇒ 佐藤室長) 今年は大妻女子大学、北海道教育大学の先生に来ていただくが、個人的なつながりで10年後も続くかとなるとわからない。連携協定を結んでいる北大との関係性が続く可能性の方が強いと思われまふ。表記としては北海道大学等ということですかね。

⇒ 工藤部会長) 表記についてはおまかせします。

工藤部会長) 各委員が思う10年について一人ずつ思いをしゃべってもらいたい。

岩佐委員) 全体的な中身でいいますと「現状と課題」の中に、自ら判断し行動できる生きる力を持つ人材育成と書かれているので、施策をここまで一つ一つ細かく記載する必要が無いかと思う。細かく設定すると実施に向けて行動目標を立てやすくなるが、細か過ぎるとそこだけにこだわってしまう可能性もあり、そのようなことを加味しながら考えなくてはいけないと思う。

黒田委員) 子どもが減っていく中で、子どもを育てていく町にしなくてはならないので、いいと思います。

黒川委員) 最初の全体会議の時に町長から10年後を見据えてと言われているが、長いスパンの中で、先ほど因課長が言われたように明日とかでも1年後とかを見据えながら進めるしかないかなと思っています。

澁谷委員) 湧別町の子どもは恵まれていて、他の市町村と比べて教育に対して手厚いのが湧別町だと思っています。10年後とは言わず湧別町に帰ってこられる、戻ってこられる環境が整っていればと思っています。

工藤部会長) 過疎化している中で、若い人が町に愛着を持って活動に参加してもらえるのは、なかなか難しいと思うのですが、どうやって育てればいいんですかね。難しいですよ。施策と結果がうまく結びつかないのは、恵まれ過ぎているんですかね。

⇒ 尾山課長) 教育委員会としては、小・中学校段階では、湧別町のことや良さをわかっていながら、ICTの知識や語学力・英語を身に付けて

#### 4 (てん末書用紙)

いる子どもを育てたいと思っています。その後、それぞれの進路に進んで仕事があれば戻ってくるだろうという感触は持っていますが、いかんせん仕事がない状況にありますので、学校教育の部分では中学校3年生までに、どこに行ってもしゃべれて、社会でやっていける人間を育てていきたいと思っています。

工藤部会長)「就学援助の実施」に関連して、所得によって色々と制限されることがあるので、その部分を施策として、なんとか補助して平等性を保つ必要があるんじゃないかなと思うのですが。

⇒ 尾山課長) 経済的な困窮を理由に進学できない方については、所得制限を設けた奨学金を給付していて、更に数年前から町内に就職すれば償還を免除する仕組みを奨学金の中に設けています。また、企画財政課でもUターン目的に奨学金の返済を助成する制度を令和3年度に設けています。

⇒ 工藤部会長) なかなか、町民にとっては理解が浸透しない部分がある。

⇒ 因課長) 令和3年度に設けられた制度で、すでに湧別高校の生徒にはお知らせしました。始めたばかりの制度ですので、各企業にも周知をしまして、制度を踏まえた上での求人や高等教育(大卒採用)を調整してもらえる制度設計になっています。

⇒ 西海谷主幹) 68ページに他の部会になりますが、「雇用機会の確保」というところでUターンの新規就業者を増やす施策として、この奨学金の制度などを記載しています。

工藤部会長)「教材・教具及び情報機器の整備・更新」について、ICTの活用は臨時休校時のみの対応なのか。

⇒ 尾山課長) 国が進めるGIGAスクール事業により、令和3年3月末に小中学生全員に割り当てられるiPadを整備しました。通常の授業でも使用しますが、使ったことのない先生もいるので、現在、教育委員会でマニュアル化をするなど実際の授業で使用する準備を進めています。昨年のコロナでの臨時休校時にも上中と湧別中の3年生対象にZoomによるオンライン授業を実施しましたので、使用機器と実施経験もありますので、再び臨時休校になった際はオンライン授業を行える体制となっています。

⇒ 工藤部会長) 家に持って帰って家庭学習に使用するのか。

⇒ 尾山課長) 将来目標としては考えていますが、今のところそこまでは至っていません。

⇒ 岩佐委員) ICTの説明を下に追加してもらいたい。

⇒ 尾山課長) 学校ICT教育の注釈を追記します。

工藤部会長)「中高一貫教育」について、湧別高校との連携については、勉強しないでいい元凶となっていると思う。子どもたちの中にはそれが浸透していて、親とすれば他校にというのが現実だと思うんですね。個人的には試験があった方がいいと思っている。プレゼン面接をした後に試験も受けていたりしますよね。

## 5 (てん末書用紙)

岩佐委員) 受験をすれば面接が無くなる仕組みがあってもいいかもしれないね。

⇒ 尾山課長) 湧別高校の入試にプレゼンは必須となっています。

⇒ 工藤部会長) 湧別の子どものプレゼン力は他の地域と比べてもピカイチだが、受験が必要かなと思っている。

⇒ 尾山課長) 勉強しないのではという話があって、数年前より連携入試の生徒も、高校入試の試験と全く同じものを受けることにしています。

⇒ 工藤部会長) でも試験結果は、活かされていないのでは。

⇒ 尾山課長) 湧別高校で採点して、結果は湧別高校で活用しています。

⇒ 佐藤室長) 入試の選抜方法は高校が主導していて、最終的には北海道教育委員会が決定するもので、どうにもできない状況です。中高一貫教育についてもバツッと切ることも難しく、教育委員会で決めることができない。

⇒ 工藤部会長) 10年後となると存続自体が危ういかもしれないね。

⇒ 佐藤室長) 令和8年度の中学校卒業生見込みが36名ぐらいしかいなく、進学率が100%でも2間口確保は難しい状況で、その段階で中高一貫教育を続けることができるのかはわからない。

⇒ 尾山課長) 令和2年度の卒業生が66名で、そのうち湧別高校に進学したのが29名で進学率は44%ぐらいですね。

⇒ 工藤部会長) 単年度、単年度で評価をして、注視していかないといけない。

⇒ 尾山課長) 中高一貫でやっているキャリア教育は素晴らしいものと思っていますので、中高一貫教育の施策の中に見直しを図りながら注視していくような文章の追記を検討します。

【審議 (主要施策)】 意見なし

【質疑 (施策の評価指標)】

黒川委員) 目標値の考え方は。

⇒ 西海谷主幹) 39ページの下段に計算式を掲載してしまして、すべての分野で掲載すればわかりやすいかもしれませんが、重複するので、最初の分野にのみ掲載しています。

⇒ 黒川委員) わかりました。

【審議 (施策の評価指標)】 意見なし

## (2) 社会教育

【質疑 (現状と課題)】

工藤部会長) 皆さんいろいろ学びたいと思っていて、eラーニングなどインターネットで気軽に学べる形も出てきていますが、年齢の問題もあつたりするので、自治会等の横のつながりを支援する必要もあるのかな。

## 6 (てん末書用紙)

⇒ 黒田委員) 情報がないと感じていて、町(協会)に所属する団体については、かわらばん等で知ることができるが、個人でやっていて数人しかいないグループは、口コミしか募集手段がなくて人が入らないねと話している。個人的なグループの情報提供をしてもらえるんですかね。

⇒ 坂本課長) 社会教育で情報提供は重要なことと認識していますが、社会教育課でそろばんや公文、ダンス等の習い事の情報を知ったことはないです。昨年、町内の主婦グループがそのような情報を知りたいと集まり情報を取りまとめて、全戸には配布していませんが、公共施設に配置したと聞いています。そのような支援も考えていかななくてはと思っています。

⇒ 黒田委員) 文化協会とかに入っていない団体の情報提供はできないかな。

⇒ 坂本課長) 線引きとして、職業として教えている方も中にはいて、営利が絡んできた時を考えて、これまで社会教育課が作りきれなかった理由の一つではあると思いますが、ユーザー目線でいくと習いたい気持ちは一緒なので、検討する価値があるのかなと思います。

⇒ 工藤部会長) 民間レベルの参加が必要な時代になりますよね。西村組の人が個人的にやっている取り組みにリンクするなど、行政だけでは限界がありますよね。

⇒ 黒川委員) 例えば、サークルの方が役場に出向いてかわらばんに掲載したいと言え、載せてもらえることはできるのか。

⇒ 坂本課長) 直接、総務課の広報担当に話をするのではなく、社会教育課に相談してもらって、その中身を吟味させていただいて掲載するべきと判断すれば社会教育課から総務課に掲載をお願いすることもできる。

⇒ 黒川委員) 逆にかわらばんに募集したいサークルは、PRをするので連絡をくださいという内容のものを載せてもいいのではないかと。

⇒ 坂本課長) そのような内容の掲載を検討しますし、それ以外にも文化協会等の各種会合に出向いた際に私や職員から声掛けをしたいと思っています。

岩佐委員) 10年後のめざす姿「社会教育団体の充実」とあるが、現状と課題のどこに結びついているのかわからない。

黒川委員) 関連して、10年後のめざす姿「社会教育団体の充実」に経済活動として自立を目指し、と記載されているが経済活動とは何か。

⇒ 坂本課長) 現状と課題の対応箇所ですが、12行目の青少年から、17行目までの6行が対応していると思います。また、経済活動については、自主自立という意見だと思いますが、しっくりこない表記なので見直しを検討します。

工藤部会長) 青少年、成人期と段階ごとの教育に触れているが、障がい者の教育には触れなくていいのか。

## 7 (てん末書用紙)

⇒ 西海谷主幹) 障がい者については、社会福祉のところで、教育ではありませんが、福祉として触れています。

⇒ 坂本課長) これまで社会教育課では障がい者を対象にした教育をしてきてはいない。

⇒ 工藤部会長) 文言としては必要ないかもしれないが、実際に行う施策の中で実施してもらいたい。

【審議 (現状と課題)】 意見なし

【質疑及び審議 (10年後のめざす姿)】 質疑及び意見なし

【質疑及び審議 (主要施策)】 質疑及び意見なし

【質疑及び審議 (施策の評価指標)】 質疑及び意見なし

※予定していた「芸術文化」「スポーツ」は、時間内に審議できなかったため、第2回審議会にて審議することとして終了。

## 6. 次回会議の日程について

事務局から次回会議の日程について提案。

部会長家業の都合により開催時間を夕方にすることを提案し、他の委員から異議がなかったため、次の日程で開催を決定。

第2回教育文化専門部会開催日時：令和3年4月27日 (火) 午後5時00分

〃 開催場所：文化センターさざ波 中議室

## 7. 閉会